早川知芳写真展「静かの海 Mare Tranquillitatis」

作家名:早川 知芳

会場: gallery 176 (ギャラリー イナロク)

大阪府豊中市服部元町1-6-1/阪急宝塚線 服部天神駅(梅田から11分)下車 徒歩1分

会期:2018年5月11日(金)~5月22日(火)

休廊日:5月16日(水)、17日(木)

開廊時間:13:00~19:00 企画:gallery 176 早川知芳



(c) HAYAKAWA Tomoyoshi

作品説明:

荒涼とした磯に立ち海に対峙する釣り人のドキュメントです。

釣り人の追っている魚は、ヒラスズキ。

季節は冬、穏やかな海には姿を現さないヒラスズキが、釣り人が手の届く磯際に姿を現すのは、 人を拒絶するような荒れた海。その時を待っていた釣り人は、波風が逆巻く磯際に立ち海に対峙 し、ヒラスズキを狙う。その環境は苛酷で、海に引きずり込まれたり断崖から落ちて命を落とす 事もある・・・

私自身ヒラスズキを追う釣り人として磯際を歩き続けいる中で、容赦なく叩きつける波風に翻弄され身体を磯に叩き付けられたり波に飲み込まれて海の底に引きずり込まれかけたりと幾度か命を落としそうになりながら、何故ここまでしてヒラスズキを追うのか?という自問が湧き上がりました。その自問を認識した時から、磯際の風景がそれまでのものと全く違って見えるようになりました。

何故釣り人はそこまでしてヒラスズキを追うのか?

ただヒラスズキを釣るためだけではない、釣り人が海に対峙する本当の理由は何なのか?それを探るために、釣竿をカメラに持ち替えて、冬の紀伊半島の荒涼な原始が剥き出しの磯でヒラスズキを追う釣り人を撮影し始めました。撮影を始めて12年、問いに対して未だ海は沈黙したままで、ただ釣り人の眼前に広がるのは「静かの海」そのものです。

Mare Tranquillitatis(ラテン語 静かの海)

展示構成:

大型インクジェットプリント(モノクロ・カラー混在)を中心に展示予定(枚数未定)。







早川 知芳(はやかわ ともよし)

1974 年大阪生まれ

大阪芸術大学中退

在学中の 95 年に休学し、パリ・テルアビブ・エルサレム・パレスチナ自治区・アテネ・イスタンブール・ローマなどを放浪し帰国後暫くして退学。旅費や生活費はテルアビブで働いて得る。 2000 年に約 1 年ほどブラジルを中心に南米に滞在し、アマゾン河で釣りをしたりイースター島へ渡ったりして過ごす。

帰国後、広告写真家の助手になり、後に独立、個人事務所設立。

2016 年 APA アワード入選

グループ展など

How are you,PHOTOGRAPHY?展(京都写真クラブ主宰 2012 年より毎年参加)

大阪写真月間 150 人の一坪展(2013 年より毎年参加)

個展は今回が初開催

関連イベント

オープニングパーティー

日時:2018年5月11日(金)18:00~

料金:無料、予約不要

ギャラリートーク「写真家×釣り人」

日時:2018年5月19日(土)17:00~(予定)

出席者: 早川知芳、*対談者調整中

料金:無料、予約不要

お問い合わせ先

早川知芳写真展に関するご質問、メディア掲載用画像の提供等のお問い合わせは、下記までお願い致します。

gallery 176 (ギャラリー イナロク)

担当:早川知芳

tel: 050-7119-9176

e-mail: info@176.photos